

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名

会社名

担当部門

住所

電話番号

FAX 番号

e-mail

緊急連絡先

推奨用途及び使用上の制限

: JAやまがたCDU入り野菜1号

: 全国農業協同組合連合会

: 耕種資材部

: 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F

: 03-6271-8285

: 03-5218-2536

: zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp

: 03-6271-8285

: 肥料用途。肥料用途以外には使用しないでください。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性

健康に対する有害性

: 爆発物

: 可燃性ガス

: エアゾール

: 酸化性ガス

: 高压ガス

: 引火性液体

: 可燃性固体

: 自己反応性化学品

: 自然発火性液体

: 自然発火性固体

: 自己発熱性化学品

: 水反応可燃性化学品

: 酸化性液体

: 酸化性固体

: 有機過氧化物

: 金属腐食性化学品

: 鈍性化爆発物

: 急性毒性(経口)

: 急性毒性(経皮)

: 急性毒性(吸入:気体)

: 急性毒性(吸入:蒸気)

: 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)

: 皮膚腐食性/刺激性

: 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: 呼吸器感作性

: 皮膚感作性

: 生殖細胞変異原性

: 発がん性

: 生殖毒性

: 生殖毒性・授乳影響

: 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: 誤えん有害性

分類できない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

分類できない

分類できない

区分に該当しない

区分に該当しない

分類できない

区分に該当しない

分類できない

分類できない

分類できない

分類できない

分類できない

分類できない

区分2

区分1A

分類できない

分類できない

分類できない

区分2(免疫系)、区分2(呼吸器)、
区分2(腎臓)

分類できない

環境に対する有害性	: 水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による免疫系, 呼吸器, 腎臓の障害のおそれ

注意書き

: 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じんを吸入しないこと。

保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用すること。

【応急措置】

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察・手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診断・手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質

化学物質・混合物の区別

: 混合物

化学名又は一般名、別名

: 化成肥料

成分及び含有量

: 窒素全量(TN)

13.0 %

(肥料の品質の確保等に

内アンモニア性窒素(AN)

5.3 %

関する法律に基づく表示)

りん酸全量(TP)

7.0 %

内く溶性りん酸(CP)

6.8 %

内水溶性りん酸(WP)

4.7 %

加里全量(TK)

8.0 %

内水溶性加里(WK)

8.0 %

く溶性苦土(CMg)

1.0 %

く溶性マンガン(CMn)

0.40 %

く溶性ほう素(CB)

0.20 %

危険有害成分

:

成分	含有量(%)	PRTR法 政令番号	安衛法通知 政令番号	化審法官報 整理番号	CAS番号
結晶質シリカ	4.8	該当なし	165-2	1-548	14808-60-7
無機マンガ化合物 [※]	(MnO ₂ として)0.49	1-465	550	該当なし	該当なし

※: 本製品の原料である微量要素肥料が含有する。当該微量要素肥料は有害性データなし。

4. 応急措置

吸入した場合

: 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

: 水で洗い流す。

目に入った場合

: 水で数分間洗浄ののち、痛みがある場合は直ちに眼科医の手当を受ける。

飲み込んだ場合

: 水でよく口の中を洗浄する。可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 周辺の火災状況により、適切な消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	: なし。
特有の危険有害性	: 難燃性であるが、強熱すると悪臭を生じることがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置	: 適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
環境に対する注意事項	: 公共用水域に流出しないように留意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: シート等で覆いをして、飛散拡大の防止を図る。固体は掃き集めて回収する。 本製品が付着したものは、廃棄上の注意の項に従って廃棄する。
二次災害の防止策	: 床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 取扱いは、換気の良い場所で行うことが望ましい。 必要に応じて適切な保護具を着用し、容器は丁寧に扱うこと。
安全取扱注意事項	: 粉じんを吸入しないこと。 取扱い後は、使用した保護具、手、顔等をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保管	
安全な保管条件	: 雨、直射日光と高温・高湿を避け、乾燥した換気の良い場所で保管すること。 開封したまま放置すると吸湿して固結するおそれがあるので、使用後は密封して保管すること。
安全な容器包装材料	: 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
日本産衛学会(2020年)	: その他の無機及び有機粉じん(第3種粉じん) 吸入性粉じん 2.0mg/m ³ 総粉じん 8.0mg/m ³
ACGIH(2020年)	: 設定されていない。
設備対策	: 作業場に手洗いの設備を設置し、位置を明確にしておく。 換気を良くし、粉塵の飛散を防止する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 防塵マスク
手の保護具	: ゴム手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 定められた作業衣、安全靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色	: 粒状、薄茶色～灰色
臭い	: ほぼ無臭
融点／凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／	: データなし

可燃限界	
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 6.0～7.5
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に一部可溶
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 約0.9(かさ密度)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 球状、2～4mm

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常取り扱い条件(常温)では安定。
化学的安定性	: 通常取り扱い条件(常温)では安定。
危険有害反応可能性	: 強アルカリ性資材との混用や加熱により、アンモニア等の有害ガスを発生する可能性がある。
避けるべき条件	: 強アルカリ性資材との混用 加熱・燃焼 粉じんの拡散
混触危険物質	: 強塩基性物質
危険有害な分解生成物	: アンモニア、窒素酸化物、りん酸化物、硫黄酸化物、ほう素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素、ばいじんなど

11. 有害性情報

急性毒性	: 情報なし
皮膚腐食性／刺激性	: 情報なし
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: 情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 情報なし
誤えん有害性	: 情報なし

《本製品の構成成分である結晶質シリカに関するもの》

急性毒性(経口)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
急性毒性(経皮)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入: 気体)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入: 蒸気)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: GHS分類: 区分2 In vivoでは、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いたhprt遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織のhprt遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化DNA傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞のDNA切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitroでは、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分2とした。
発がん性	: GHS分類: 区分1A 多くの疫学研究結果において、本物質（石英）を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。 一方、実験動物では雌雄ラットに本物質（空気力学的中央粒子径 (MMAD) : 1.3 μ m) を 1 mg/m ³ で2年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質 (MMAD: 2.24 μ m) を12 mg/m ³ で83週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質 (MMAD: 1.8 μ m) を6.1、30.6 mg/m ³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100c (2012))。 以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ 1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第1群」に (産衛学会勧告 (2015))、ACGIHが2004年以降「A2」に (ACGIH (7th, 2006))、NTPが結晶質シリカ (吸入性粒子径) に対して、「K」に分類している (NTP RoC (13th, 2014))。よって、本項は区分1Aとした。
生殖毒性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: GHS分類: 区分1 (呼吸器、免疫系、腎臓) ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響 (珪肺症、肺がん、肺結核) が確認されている。このほか、自己免疫疾患 (強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合組織炎)、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000))。この腎臓の疾患は自己免疫に関連していると考えられている (SIDS (2013))。 実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている (SIDS (2013))。 したがって、区分1 (呼吸器、免疫系、腎臓) とした。
誤えん有害性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
《本製品の構成成分である無機マンガ化合物の主体であるマンガ酸化物 (二酸化マンガ) に関するもの》 急性毒性 (経口)	: GHS分類: 区分に該当しない ラットのLD50値として、> 2,197 mg/kg との報告 (SIDS (2012)、NITE初期リスク評価書 (2008)) に基づき、区分外とした。

急性毒性(経皮)	: GHS分類: 区分に該当しない ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg との報告 (SIDS (2012)) に基づき、区分外とした。
急性毒性(吸入:気体)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: GHS分類: 区分2 In vivoでは、マウス骨髄細胞の小核試験で陽性である (SIDS (2012))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陽性である (SIDS (2012))。以上より、本物質は染色体異常誘発性があると考えられ、区分2とした。
発がん性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: GHS分類: 区分1 本物質の単回ばく露による情報は少ない。ヒトにおいては、二酸化マンガ ン粉じんの単回吸入ばく露は、肺の炎症反応をもたらす。その症状は、 咳、気管支炎、肺炎、肺機能の低下である。また、マンガンのヒューム吸入 ばく露でヒューム熱の発症が認められている(CICAD 63 (2004)、NITE有害 評価書 (2008))。 実験動物では、げっ歯類 (動物種不明) の2.8-43 mg/m ³ (0.0028-0.043 mg/L) の吸入ばく露で肺の炎症、ラットの吸入ばく露(気管内注入、用量不 明) で肺の組織学的変化が認められている (CICAD 63 (2004)、ACGIH (7th, 2001)、EHC 17 (1981)) が、これらの実験動物のデータは分類に用い なかった。 以上より、本物質は呼吸器に影響を与えられ、区分1 (呼吸器) とし た。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: GHS分類: 区分1 (神経系、呼吸器) ヒトでは本物質粒子への慢性吸入ばく露により、呼吸器障害 (咳、気管支 炎、肺炎)、マンガ粒子を食したマクロファージを特徴とする肺炎の発 生率の増加がみられ、一部の例には肺水腫も併発していた (SIDS (2012)、 NITE初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012)) との記述、並びにアルカリ 乾電池工場では本物質への職業ばく露 (吸入性粉じん濃度: 0.021-1.32 mg Mn/m ³ ;ばく露期間: 0.2-17.7年間) により、視覚の単純反応時間及び眼と 手の協調運動の低下に加え、手の硬直がみられた (SIDS (2012)、NITE初 期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012)) との記述がある。ATSDR (2012) は 疫学研究報告を詳細に調査し、前述のアルカリ乾電池工場での職業ばく 露報告のように、低濃度のマンガ化合物の長期ばく露による神経学的な 影響は神経運動能検査、認知機能検査における機能低下や、気分の変 化など微妙な変化であるが、本物質を主体としたマンガ化合物への高濃 度の反復吸入ばく露により、初期には軽度であるが、次第に感情鈍磨、歩 行障害、微細な振るえ、精神障害など明確な神経系障害へと進展していく ことは確かであると結論している (ATSDR (2012))。 実験動物ではアカゲザルに本物質粉じんを10ヶ月間吸入ばく露 (22時間/ 日) した試験で、区分1の濃度範囲 (0.7 mg Mn/m ³ (1.108 mg MnO ₂ /m ³) : ガイダンス値換算値 (0.0041 mg/L/6時間)) で、カタル性肺炎、肺間質組 織の増生がみられ (SIDS (2012)、NITE初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012))、ラットでも10日間の吸入ばく露により間質性肺炎を生じた (NITE初 期リスク評価書 (2008)) との記述がある。 以上より、分類は区分1 (神経系、呼吸器) とした。
誤えん有害性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

《本製品の構成成分である結晶質シリカに関するもの》

生態毒性	: GHS分類: 分類できない データが無いため分類できない。
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

《本製品の構成成分である無機マンガ化合物の主体であるマンガ化合物(二酸化マンガ)に関するもの》

生態毒性	: GHS分類: 分類できない データが無いため分類できない。
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 肥料として農作物に適量撒くか、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って廃棄する。
汚染容器及び包装	: 内容物を除去し、関連法規並びに地方自治体の基準に従い適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 該当しない
国内規制	
陸上規制情報	: 道路法に従う
海上規制情報	: 船舶安全法、港則法に従う
航空規制情報	: 航空法に従う
輸送又は輸送手段に関する 特別の安全対策	: 直射日光を避け、容器の破損・漏れ等の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。雨天時は防水シート等で覆いをする。

15. 適用法令

肥料の品質の確保等に関する法律	: 化成肥料(肥料公定規格)
環境基本法	: 水質汚濁に係る環境基準(法第16条、昭46環告59) (生活環境の保全に関する環境基準 全窒素、全磷)
水質汚濁防止法	: 排水基準(法第3条、排水基準を定める省令第1条) (アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物、 ほう素及びその化合物)
労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、令第18条の2) (政令番号 第165の2号 結晶質シリカ) (政令番号 第550号 無機マンガ化合物)
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない

16. その他の情報

参考文献

1. 15509の化学商品 2009年 (化学工業日報社)
2. 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所)
3. GHS分類結果データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
4. GHSモデルSDS情報(厚生労働省 職場のあんぜんサイト)

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は、保証値ではありません。

危険有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので、取扱いには充分注意してください。

注意事項等は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、その時点のご配慮をお願いします。

本 SDS は、片倉コープアグリ株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については下記にお問い合わせ ください。

会社名	: 片倉コープアグリ株式会社
住 所	: 東京都千代田九段北一丁目8番10号
担当部門	: 生産技術本部 生産技術部
電話番号	: 03-5216-6614
FAX番号	: 03-5216-6621
緊急連絡先	: 八戸工場 品質管理課 (電話番号:0178-44-8821 FAX番号:0178-45-5792)